科目区分	共通科目			聴講	可
授業科目名	看護学研究方法論Ⅰ（研究過程と研究方法の理解）			科目履修	可
科目番号	MN0001	クラス番号	MN1		
授業形式	講義・演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・前期	単位	2単位　30時間		
科目責任者	行田智子	その他			
担当教員	行田智子、横山京子、巴山玉蓮、石川良樹、中西陽子、松田安弘、山下暢子、肥後すみ子、田村文子、狩野太郎、宮崎有紀子、高井ゆかり				
授業の概要	本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に資する研究成果を産出することのできる人材育成に必要な科目として、看護学研究方法論Ⅰ（研究過程と研究方法の理解）を提供する。学生は、看護学研究方法論Ⅰ（研究過程と研究方法の理解）を通し、EBP及び科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE：Evidence-Based Nursing Education）の根拠となりうる研究成果を産出するために必要な研究過程と研究方法を理解する。具体的には、看護学研究に関わる学術用語、研究デザインの種類や特徴、データ収集・分析の方法など、研究成果の産出に必要な基礎知識・技術を修得する。また、既存の看護学研究を批判的に精読するために必要な知識の修得を通し、系統的な文献検討に基づく研究計画作成の重要性を理解する。				
学科目的	看護学研究の意義と目的を理解し、研究遂行に必要な基礎知識を修得する。				
学科目標	1. 研究過程と研究方法を説明する。 2. 文献講読を通して学習した内容を学術用語を用いて発表する。 3. 精度の高い研究計画書を作成するための要件を列挙する。 4. 特別研究の課題との関連から研究遂行に必要な基礎知識を修得する必要性と意義を述べる。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業形態	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	研究過程における文献検討の意義と方法	講義	課題図書『看護研究―原理と方法―』の精読と要約	行田 横山
2	看護研究の基礎 －看護と研究，研究における倫理と用語，研の過程	発表・講義		
3	研究の概念(1) －研究課題，研究設問と仮説，文献検討			行田 横山
4	研究の概念(2) －概念的文脈の開発－理論，モデル 研究デザイン(1) －研究デザインの選択，倫理的研究デザイン			行田 横山 高井
5	研究デザイン(2) －量的研究デザイン			行田 横山 巴山
6	研究デザイン(3) －量的研究方法における厳密性の強化，多様な量的研究			行田 横山 石川
7	研究デザイン(4) －質的研究デザインと方法，質的研究デザインと量的研究デザインの統合			行田 横山 中西
8	研究デザイン(5) －測定とデータ収集(1)－データ収集計画のデザイン			行田 横山 松田

9	測定とデータ収集(2) －自己報告データ，観察データの収集			行田 横山 山下
10	測定とデータ収集(3) －生物生理的データ，データの質の評価			行田 横山 肥後
11	研究データの分析(1) －量的データの分析：記述統計，推測統計			行田 横山 狩野
12	研究データの分析(2) －量的データの分析：多変量統計学，量的分析の方略のデザインと実施	発表・講義		行田 横山 宮崎
13	研究データの分析(3) －質的データの分析			行田 横山 田村
14	研究の伝達 －研究成果の要約と共有、研究計画書の作成			行田 横山
15	研究計画書の利用 －研究報告の評価，看護研究の活用			

■終了後レポートの課題『看護学研究方法論Ｉを通して学んだこと』
　自己の研究課題との関連から、研究遂行に必要な基礎知識を修得する必要性と意義を述べる。

評価方法	授業への参加状況（20%），発表（50%），終了後レポート（30%）
参考書 参考文献等	・Polit, D. F. & Beck, C. T.: Nursing Research: Principles and Methods, Seventh Edition，Lippincott Williams & Wilkins, 2004. ・Polit, D. F . Beck.(近藤潤子監訳)；看護研究―原理と方法―第 2 版，医学書院，2010.
学習相談 助言体制	学生個々の必要性に応じて質問に応じるなどの相談・支援を行う。
備考	・引き続き看護学研究方法論Ⅱ（研究批評と研究成果の活用）を受講することにより、学習の高い統合レベルを目指すことが可能である。

科目区分	共通科目			聴講	可
授業科目名	看護学研究方法論Ⅱ（研究批評と研究成果の活用）			科目履修	可
科目番号	MN0002	クラス番号	MN1		
授業形式	講義・演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・後期	単位	2単位　30時間		
科目責任者	行田智子	その他			
担当教員	行田智子、横山京子、大澤真奈美、中西陽子、廣瀬規代美、齋藤基、山下暢子、狩野太郎、石川良樹、宮崎有紀子、高井ゆかり				
授業の概要	本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に資する研究成果を産出することのできる人材育成に必要な科目として看護学研究方法論Ⅱ（研究批評と研究成果の活用）を提供する。看護学研究方法論Ⅱ（研究批評と研究成果の活用）を通し、学生は、看護学研究方法論Ⅰ（研究過程と研究方法の理解）で得た知識を前提とし、EBP及び科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE：Evidence-Based Nursing Education）の根拠となりうる研究成果を産出するために必要な研究批評と研究成果の活用に必要な知識・技術・態度を理解する。具体的には、質的研究・量的研究の方法、各々の特徴と意義を学習する。学習内容の発表・討論を通し、看護学研究の遂行に必要な知識・技術・態度の共通点・相違点を理解する。また、研究論文の批評を通し、研究成果の活用可能性について検討する。 〔オムニバス方式／全15回〕 （行田・横山／6回、宮崎／1回、高井／1回） 研究批評と研究成果活用に必要な能力について講義を展開する。また、課題図書『看護研究』の講読演習を通し、探究のレベルに応じた研究計画に必要な知識を提供する。さらに、研究批評の演習において、学生間の発表内容・討論を査定し、補完すべき知識を提供する。 （大澤真奈美／2回） 講義では質的研究の真実性確保に必要な基礎知識を提供する。また演習では、実際の文献を用いて真実性確保の観点から研究批評を行い、学生間で発表、討論を行う。 （中西陽子／1回） 講義を通し、内容分析の歴史と特徴、方法論の相違に伴う分析結果の相違、内容分析を適用した研究の遂行に必要な基礎知識を提供し、内容分析を用いた研究と研究成果活用の実際を紹介する。 （廣瀬規代美／1回） 講義を通し、グラウンデッド・セオリーの歴史と特徴、分析方法、グラウンデッド・セオリーを適用した研究の遂行に必要な基礎知識を提供する。また、グラウンデッド・セオリーを用いた研究と研究成果活用の実際を紹介する。 （齋藤　基／1回） 講義を通し、ＫＪ法の歴史と特徴、分析方法、ＫＪ法を適用した研究の遂行に必要な基礎知識を提供する。また、ＫＪ法を用いた研究の実際と研究成果活用の具体例を紹介する。 （山下暢子／1回） 講義を通し、自然主義的パラダイムに立脚した方法論として、看護概念創出法を取り上げ、その特徴と研究の実際及び研究成果活用の具体例を紹介する。 （狩野太郎／2回） 講義と演習を通し、量的研究の種類と特徴、関係探索研究、関連検証研究の遂行に必要な基礎知識及び研究の実際を紹介する。また、講義を通し、測定用具開発研究の遂行に必要な基礎知識を提供し、尺度の開発過程と尺度活用の実際を紹介する。 （石川良樹／1回） 講義を通し、実験研究の特徴、無作為化、実験研究デザインの研究計画、実験研究の長所・短所、実験研究の遂行に必要な基礎知識及び研究の実際を紹介する。				
学科目的	研究方法論の特徴を学習し、研究遂行に必要な知識・技術・態度を理解する。				
学科目標	1.　既存の研究方法論の特徴を理解する。 2.　研究方法論の学習を通し、研究成果の産出・活用に必要な知識を修得する。 3.　研究批評を通し、研究成果の活用可能性を説明する。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業形態	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	研究批評と研究成果活用に必要な能力	講義	課題図書 Diers, D『看護研究』	行田 横山
2	探究のレベルと研究計画(1) 因子探索研究と関係探索研究の特徴	発表・講義		行田 横山 高井
3	探究のレベルと研究計画(2) 関連検証研究と因果仮説検証研究の特徴			行田 横山 宮崎
4	探究のレベルと研究計画(3) 規定検証研究と測定法検証研究の特徴			行田 横山
5	質的研究の基礎知識(1) 自然主義的パラダイム，信用性	講義	5 回:課題図書 Holloway 著『ナースのための質的研究入門』の p.246 ～ 261 の精読と要約、6 回:発表に向けて研究批評を行う	大澤
6	質的研究の基礎知識(2) 自然主義的パラダイムの立脚した方法論を用いた研究の信用性確保の実際	発表		
7	質的研究の実際(1) 内容分析の手法を用いた研究の実際	講義	各研究方法論の関連図書の精読	中西
8	質的研究の実際(2) グラウンデッド・セオリーを用いた研究の実際			廣瀬
9	質的研究の実際(3) ＫＪ法を用いた研究の実際			齋藤
10	質的研究の実際(4) 看護概念創出法を用いた研究の実際			山下
11	量的研究の実際(1) 関係探索研究・関連検証研究の実際			狩野
12	量的研究の実際(2) 測定用具開発研究の実際			狩野
13	実験研究の実際			石川
14	研究批評(1) 国内文献を選択し、授業を通して得た知識を活用し、研究成果の活用も含めて批評する。	発表・討論	国内文献の精読 研究批評の内容の要約	行田 横山
15	研究批評(2) 国内文献を選択し、授業を通して得た知識を活用し、研究成果の活用も含めて批評する。			

■終了後レポートの課題『看護学研究方法論Ⅱを通して学んだこと』
自己の研究課題との関連から研究批評と成果活用に必要な知識を修得する必要性と意義を述べる。

評価方法

発表（40%），討論（20%），終了後レポート（40%）

参考書 参考文献等

・Diers, D：看護研究―ケアの場で行うための方法論―，日本看護協会出版会，1998.
・Holloway，Ｉ.，Wheeler，S，著，野口美和子監訳：ナースのための質的研究入門，第２版，医学書院，2011.
・舟島なをみ：質的研究への挑戦　第２版，医学書院，2007.
・舟島なをみ：看護教育学研究―発見・創造・証明の過程―，第２版，医学書院，2010.
・Polit, D. F. & Beck, C. T.: Nursing Research: Principles and Methods, Seveth Edition，Lippincott Williams & Wilkins, 2004.

学習相談 助言体制

学生個々の必要性に応じて質問に応じるなどの相談・支援を行う。

備考

看護学研究方法論Ⅰ（研究過程と研究方法の理解）に引き続き受講することにより、学習の高い統合レベルを目指すことが可能である。

科目区分	共通科目			聴講	可
授業科目名	専門職教育展開論Ⅰ（カリキュラム編成の基礎）			科目履修	可
科目番号	MN0003	クラス番号	MN1		
授業形式	演習・講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・前期	単位	2単位　60時間		
科目責任者	山下暢子	その他			
担当教員	山下暢子　松田安弘				
授業の概要	本研究科は、高等教育としての看護学教育の特徴と課題に精通し、研究成果の教材化・授業計画案作成・教授方略等の授業展開に必要な知識・技術、その基盤となる看護教育評価・看護学教育カリキュラム編成の知識・技術、教育倫理に関する知識・技術を駆使し、質の高い教育を展開することのできる人材育成に必要な科目として、専門職教育展開論Ⅰ（カリキュラム編成の基礎）を提供する。科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けては、科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE：Evidence-Based Nursing Education）が必要不可欠である。専門職教育展開論Ⅰ（カリキュラム編成の基礎）を通し、学生は、EBNE 展開の基礎となる知識を修得する。具体的には、看護教育評価・看護学教育カリキュラム編成の基礎理論を学習し、看護学教員や看護職者として教育的機能を果たすための基盤となる知識を獲得する。				
学科目的	科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE：Evidence-Based Nursing Education）に必要な教育過程展開や教育評価に必要な基礎理論、カリキュラム編成の基礎知識を理解する。				
学科目標	1. 保健医療専門職者が教育的機能を果たすために必要な教育学の基礎理論を理解する。 2. 保健医療専門職者が教育活動を展開するために必要な基本的知識を修得する。 3. 1.2.を前提とし、カリキュラム編成の過程を理解する。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業形態	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	保健医療専門職者が教育的機能を果たす意義と必要性	講義		山下 松田
2	教育過程展開の基礎理論(1) －構造の重要性	発表・討議	課題図書『教育の過程』の精読と要約	山下
3	教育過程展開の基礎理論(2) －学習のためのレディネス			
4	教育過程展開の基礎理論(3) －直観的思考と分析的思考			
5	教育過程展開の基礎理論(4) －学習のための動機付け，教具			
6	教育過程展開の基礎理論(5) －教育過程展開の基礎理論を活用した授業の実際	講義		
7	教育評価の基礎知識(1) －教育と計画	発表・討議	課題図書『看護学教育における講義・演習・実習の評価』の精読と要約	松田
8	教育評価の基礎知識(2) －教授過程における評価の利用			
9	教育評価の基礎知識(3) －認知的、情意的教育目標に関する評価技法			
10	教育評価の基礎知識(4) －評価システム			
11	教育評価の基礎知識(5) －教育評価の基礎知識を活用した授業展開	講義		
12	カリキュラム編成の基礎理論(1) －序章、カリキュラムの作成過程、方向づけ段階－	発表・討議	課題図書『看護教育カリキュラ	山下

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td>13</td><td>カリキュラム編成の基礎理論(2)
－形成段階・評価段階－</td><td></td><td rowspan="3">ム―その作成過程』の精読と要約</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>14</td><td>カリキュラム編成の基礎理論(3)
－カリキュラム過程のアセスメント、学士課程に編入する学生としての看護師あるいは准看護師－</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>15</td><td>カリキュラム編成の基礎理論(4)
－カリキュラム編成の基礎理論を活用した大学・大学院設置の実際</td><td>講義</td></tr>
</table>
■終了後レポートの課題『専門職教育展開論Ⅰを通して学んだこと』
保健医療専門職者として教育的機能を果たすという観点から、自己の課題を論述する。
</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td>発表（40%），討議（20%），終了後レポート（40%）</td></tr>
<tr><td>参考書
参考文献等</td><td>・J.S.ブルーナー：教育の過程，岩波書店，1986.
・舟島なをみ監訳：看護学教育における講義・演習・実習の評価, 医学書院, 2009.
・G,トレス他：看護教育カリキュラム―その作成過程―，医学書院，1998.
・B.S.ブルーム他：教育評価法ハンドブック，第一法規出版，1979.
・杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学　第５版　増補版，医学書院，2014.</td></tr>
<tr><td>学習相談
助言体制</td><td>学生個々の必要性に応じて質問に応じるなどの相談・支援を行う。</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>・診療放射線学研究科と共通科目
・引き続き専門職教育展開論Ⅱ（カリキュラム編成の実際）を受講することにより、学習の高い統合レベルを目指すことが可能である。</td></tr>
</table>

科目区分	共通科目			聴講	可
授業科目名	専門職教育展開論Ⅱ（カリキュラム編成の実際）			科目履修	可
科目番号	MN0004	クラス番号	MN１		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	１年次・後期	単位	２単位　60 時間		
科目責任者	松田安弘	その他			
担当教員	松田安弘　山下暢子				
授業の概要	本研究科は、成人学習者としての看護職者、看護学教員の特性を理解し、スタッフ・ディベロップメント（SD）、ファカルティ・ディベロップメント（FD）を支援できる人材育成に必要な科目として専門職教育展開論Ⅱ（カリキュラム編成の実際）を提供する。 受講者は、この科目を通し、保健医療系大学教育のカリキュラム編成に必要な知識・技術、院内教育プログラム立案に必要な知識・技術を獲得し、医療機関・教育機関において教育的役割を担う保健医療専門職者として必要な能力を修得する。具体的には、保健医療系大学教育のカリキュラムコース、スタッフ・ディベロップメント（SD）コース、ファカルティ・ディベロップメント（FD）コースにわかれ、保健医療系大学教育のカリキュラム編成、院内教育プログラムの立案過程を体験する。その際、各グループを担当する教員の助言を受けながら、グループワークを展開する。また、これらの展開を通し、獲得した知識・技術の大学教育・院内教育への活用可能性と教育的役割を担う自己の課題を検討する。				
学科目的	カリキュラム編成、あるいは、SD・FD に必要な知識・技術を習得し、医療機関・教育機関において教育的役割を担う保健医療専門職者として必要な能力を獲得する。				
学科目標	1. 保健医療系大学教育のカリキュラムコース・SD コース・FD コースのいずれかを選択し、仮想機関のカリキュラム、あるいは SD・FD プログラムの立案と実施を通して教育プログラムの編成・運用の方法を具体的に説明する。 2. 保健医療系大学教育カリキュラム編成、院内教育プログラム立案と展開上の課題を述べる。 3. 保健医療専門職者として教育的機能を果たすという観点から、自己の課題を論述する。				

授業の内容と方法

回	授業内容 （保健医療系大学教育のカリキュラムコース）	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	オリエンテーション グループの編成，役割分担，仮想大学設置の必要性について討議	グループワーク	カリキュラム編成に必要な基礎知識	松田 山下
2	カリキュラム編成：方向づけ段階① －教育理念、教育目的、卒業生の特性の明確化・成文化			
3	カリキュラム編成：方向づけ段階② －教育理念、教育目的、卒業生の特性の用語解作成，理論的枠組みの作成			
4	カリキュラム編成：方向づけ段階③ －内容の諸要素の抽出			
5	カリキュラム編成:方向づけ段階④－カリキュラム軸の抽出			
6	第１回　成果発表と討議	発表・討議	発表準備	
7	カリキュラム編成：形成段階① －カリキュラムデザインの決定	グループワーク	カリキュラム編成に必要な基礎知識	
8	カリキュラム編成：形成段階② －レベル目標の設定			
9	カリキュラム編成：形成段階③ －科目目標の設定			
10	第２回　成果発表と討議	発表・討議	発表準備	
11	カリキュラム編成：機能段階① －授業設計①：テーマの決定	グループワーク	授業設計に必要な基礎知識	
12	カリキュラム編成：機能段階② －授業設計②：目標の分析			
13	カリキュラム編成：機能段階③ －授業設計③：授業案の作成			

14	カリキュラム編成：機能段階④ －授業設計④：教材作成と模擬授業			
15	第３回　成果発表と討議	発表・討議	発表準備	

回	授業内容 （SD コース・FD コース）	授業方法	事前･事後学習（学習課題）	担当
1	グループの編成，役割分担，仮想機関の背景について討議	グループワーク	SD･FD プログラム立案に必要な基礎知識	松田 山下
2	仮想機関の現状把握と看護職者の現状把握－仮想機関の理念、仮想機関の概要、仮想機関における SD･FD の目的、育成したい看護職者・看護学教員の明確化･成文化／仮説機関に所属する看護職者の特徴の明確化・成文化			
3	経過報告	発表･討議		
4	看護職者･看護学教員の教育ニード･学習ニードのデータ分析(1)	グループワーク	学習ニード･教育ニードの分析･診断に必要な基礎知識	
5	看護職者･看護学教員の教育ニード･学習ニードのデータ分析(2)			
6	看護職者･看護学教員の教育ニード･学習ニードのデータ分析(3)			
7	看護職者･看護学教員の教育ニード･学習ニードの診断(1)			
8	看護職者･看護学教員の教育ニード･学習ニードの診断(2)			
9	経過報告	発表･討議		
10	SD・FD プログラムの編成(1)	グループワーク	プログラム立案に必要な基礎知識	
11	SD・FD プログラムの編成(2)			
12	授業設計(1)：目標の分析			
13	授業設計(2)：授業案の作成		授業設計に必要な基礎知識	
14	授業設計(3)：教材作成と模擬授業			
15	成果発表と討議	発表･討議		

■終了後レポートの課題『専門職教育展開論Ⅱを通して学んだこと』
保健医療専門職者として教育的機能を果たすという観点から、自己の課題を論述する。

評価方法	グループワークの参加状況（20%），成果発表（20%），討議（20%），終了後レポート（40%）
参考書 参考文献等	・杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学　第５版　増補版，医学書院，2014. ・G.トレス他：看護教育カリキュラム―その作成過程―，医学書院，1998. ・舟島なをみ監修：院内教育プログラムの立案・実施・評価，第２版，医学書院，2015.
学習相談 助言体制	・学生の必要性に応じて質問に応じるなどの相談・支援を行う。
備考	・診療放射線学研究科と共通科目 ・診療放射線学研究科生が受講する場合は、2 学部統合カリキュラムを設定し学習する。 ・専門職教育展開論Ⅰに引き続き受講することにより、学習の高い統合レベルを目指すことが可能である。

科目区分	共通科目		聴講	可
授業科目名	研究と倫理		科目履修	可
科目番号	MN0005	クラス番号	MN１	
授業形式	講義・演習	必修選択区分	選択	
開講時期	１年次・前期・集中	単位	２単位　30 時間	
科目責任者	肥後すみ子	その他		
担当教員	肥後すみ子　森川功　飯田苗恵			

授業の概要

本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に資する研究成果を産出することのできる人材育成に必要な科目として、研究と倫理を提供する。研究と倫理を通し、学生は、EBP 及び科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE：Evidence-Based Nursing Education）の根拠となりうる研究成果を産出する過程において必要となる倫理的態度を理解する。具体的には、人権擁護の重要性の理解を前提とし、研究過程に生じやすい倫理的問題を確認し、その回避に必要な知識・技術を習得する。また、研究過程において倫理的感受性を継続的に高める必要性を認識する。

〔オムニバス方式/全 15 回〕

（森川功/６回）

講義を通し、保健医療に関わる研究を計画・遂行する際の基礎となる医療倫理及び看護倫理の原則ならびに、バイオエシックス（生命倫理学）の基本原則を具体的に解説する。

（肥後すみ子/２回　　飯田苗恵/１回　　合同６回）

講義を通し、人権擁護が重視されるようになった背景や主な出来事を紹介するとともに、研究倫理の用語解説、人権擁護のための基本指針、保健医療における研究倫理に関わる基礎知識を提供する。また、演習を通し、学生が研究過程に生じやすい倫理的問題の抽出、問題回避に向けた提案ができるよう支援・助言する。成果発表・討議内容を査定し、補完すべき知識を提供する。

学科目的

人権擁護の重要性の理解を前提とし、研究過程に生じやすい倫理的問題を確認し、その回避に必要な知識、技術を習得する。これを通し、研究過程において倫理的感受性を継続的に高める必要性を認識する。

学科目標

1. 倫理学の基礎知識を用いて、研究過程に生じやすい倫理的問題を説明する。
2. 研究批評を通して、研究対象者への倫理的配慮の実際と必要な手続きを述べる。

授業の内容と方法

回	授業内容	授業形態	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	課題図書「悪魔の飽食」の批評	成果発表・討議	課題図書の精読・批評	森川
2	倫理理論と種々の倫理原則－直観主義，義務尊重主義，結果尊重主義，権利重視の倫理	講義	毎回、学習課題を提示	
3	バイオエシックスの基本原則(1) －侵害回避の原則，恩恵の原則			
4	バイオエシックスの基本原則(2) －自律の原則			
5	バイオエシックスの基本原則(3) －公正の原則			
6	生命の神聖さ（SOL）と生の質（QOL）			
7	保健医療における研究倫理 －人権擁護の指針と用語の解説			肥後
8	研究過程に生じやすい倫理的問題(1)	グループワーク	テーマに応じた情報収集	肥後 飯田
9	研究過程に生じやすい倫理的問題(2)			
10	研究過程に生じやすい倫理的問題(3)	成果発表	発表準備	

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td>11</td><td>個人情報保護と研究倫理</td><td rowspan="2">講義</td><td rowspan="2">毎回、学習課題を提示</td><td>飯田</td></tr>
<tr><td>12</td><td>研究批評のための基礎知識</td><td>肥後</td></tr>
<tr><td>13</td><td>研究論文の精読・研究批評による倫理的問題の抽出</td><td rowspan="2">グループワーク</td><td rowspan="2">課題研究論文の精読・批評</td><td rowspan="2">肥後
飯田</td></tr>
<tr><td>14</td><td>研究論文の精読・研究批評による倫理的問題の抽出</td></tr>
<tr><td>15</td><td>研究論文の概要・研究批評と倫理的問題の回避に向けた具体案の提示</td><td>成果発表</td><td>発表準備</td><td>肥後
飯田</td></tr>
</table>
■終了後レポートの課題『研究と倫理を通して学んだこと』
　保健医療専門職者として人権を擁護しながら研究を遂行するという観点から、自己の課題を論述する。
</td></tr>
<tr><td>評　価　方　法</td><td>グループワークの参加状況（20%），成果発表（20%），討議（20%），終了後レポート（40%）</td></tr>
<tr><td>参　考　書
参考文献等</td><td>・森村誠一：悪魔の飽食
・遠藤周作：海と毒薬
・米国科学アカデミー編；池内了訳：科学者をめざす君たちへ－科学者の責任ある行動とは
・フランクル・ヴィクトール・E：夜と霧
・宮坂道夫：医療倫理学の方法　原則・手順・ナラティブ（第２版）
・ドローレス・ドゥーリー，ジョーン・マッカーシー；坂川雅子訳：看護倫理Ⅰ</td></tr>
<tr><td>学　習　相　談
助　言　体　制</td><td>学生個々の必要性に応じて質問に応じるなどの相談・支援を行う。</td></tr>
<tr><td>備　　考</td><td>・受講者は課題図書『悪魔の飽食』を精読し、受講する。
・診療放射線学研究科と共通科目
・夏季集中</td></tr>
</table>

科目区分	共通科目			聴講	可
授業科目名	教育と倫理			科目履修	可
科目番号	MN0006	クラス番号	MN１		
授業形式	講義・演習	必修選択区分	選択		
開講時期	１年次・後期・集中	単位	２単位　30 時間		
科目責任者	横山京子	その他			
担当教員	横山京子　肥後すみ子				
授業の概要	本研究科は、高等教育としての看護学教育の特徴と課題に精通し、研究成果の教材化・授業計画案作成・教授方略等の授業展開に必要な知識・技術、その基盤となる看護教育評価・看護学教育カリキュラム編成の知識・技術、教育倫理に関する知識・技術を駆使し、質の高い教育を展開することのできる人材育成に必要な科目として、教育と倫理を提供する。教育倫理とは、教育において対象者の人権を擁護するための道徳的原則である。教育と倫理の授業を通して学生は、科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE：Evidence-Based Nursing Education）の展開過程において必要となる倫理的態度を理解する。具体的には、人権擁護の重要性の理解を前提とし、教育過程に生じやすい倫理的問題を確認し、その回避に必要な知識、技術を習得する。また、教育過程において倫理的感受性を継続的に高める必要性を認識する。 〔オムニバス方式／全 15 回〕 （横山京子/5 回　　肥後すみ子/4 回　　合同 6 回） 講義を通し、教育における人権擁護が重視されるようになった背景や主な出来事を紹介するとともに、教育倫理の現状、教育における人権擁護の基本指針など、教育倫理に関わる基礎知識を提供する。また、演習を通し、学生が教育過程に生じやすい倫理的問題の抽出、問題回避に向けた提案ができるよう支援・助言する。				
学科目的	人権擁護の重要性の理解を前提とし、教育過程に生じやすい倫理的問題を確認し、その回避に必要な知識、技術を習得する。これを通し、教育過程において倫理的感受性を継続的に高める必要性を認識する。				
学科目標	1.　倫理学の基礎知識を用いて、教育過程に生じやすい倫理的問題を説明する。 2.　教育評価を通して、教育対象への倫理的配慮の実際と必要な手続きを述べる。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業形態	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	保健医療における人権と倫理	講義	毎回、学習課題を提示	肥後
2	保健医療職の職業倫理			肥後
3	教育者の倫理的責任			肥後
4	教育過程における倫理(1) －人権擁護の指針と用語の解説			横山
5	教育過程における倫理(2) －全米教育協会（NEA）の倫理綱領		倫理綱領の翻訳	横山
6	教育過程における倫理(3) －教育活動と著作権		毎回、学習課題を提示	横山
7	教育過程における倫理(4) －教育倫理の現状			横山
8	教育過程に生じやすい倫理的問題(1)	グループワーク	テーマに応じた情報収集	肥後 横山
9	教育過程に生じやすい倫理的問題(2)			
10	教育過程に生じやすい倫理的問題(3)	成果発表	発表準備	肥後 横山

11	個人情報保護と教育倫理	講義	毎回、学習課題を提示	肥後
12	文献精読のための基礎知識			横山
13	文献精読による倫理的問題の抽出	グループワーク	研究論文の精読	肥後 横山
14	文献精読による倫理的問題の抽出	グループワーク		
15	文献の概要説明・批評と倫理的問題の回避に向けた具体案の提示	成果発表	発表準備	

■終了後レポートの課題『教育と倫理を通して学んだこと』
人権を擁護しながら教育を遂行するという観点から、自己の課題を論述する。

評価方法	グループワークの参加状況（20%），成果発表（20%），討議（20%），終了後レポート（40%）
参考書 参考文献等	・NEA：Code of Ethics of the Education Profession ・Oermann, MH.（舟島なをみ監訳）：看護学教育における講義・演習・実習の評価,「14.社会的、倫理的、法的問題」及び「付録 B」，医学書院, 2001. ・ 木下一雄：教育倫理学，東洋学出版社，1953.
学習相談 助言体制	学生個々の必要性に応じて質問に応じるなどの相談・支援を行う。
備考	・診療放射線学研究科と共通科目 ・春季集中

科目区分	共通科目			聴講	可
授業科目名	看護政策管理論			科目履修	可
科目番号	MN0007	クラス番号	MN1		
授業形式	講義・演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・前期	単位	２単位　30時間		
科目責任者	巴山玉蓮	その他			
担当教員	巴山玉蓮				
授業の概要	本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に資する研究成果を政策に反映することのできる人材育成に必要な科目として、看護政策管理論を提供する。看護政策管理論を通し、学生は、保健医療システムにおいて質の高い看護を提供するための看護政策管理的視点を裏付ける基礎知識や理論を習得する。また、看護政策管理に関する看護学研究の現状を確認し、EBPの実現および新たな研究成果を産出する意義を検討する。				
学科目的	看護実践、教育実践における問題を政策的・管理的側面から検討し、その解決に必要なエビデンスの探索、分析、統合、適用を検討する。この過程を通し、看護政策管理分野の研究の現状と活用可能なエビデンスの特徴および産出の必要性を確認する。				
学科目標	1. 保健医療システムの創造・発展・変革を担うための基盤となる知識を理解する。 2. 看護政策管理に関連する基本的知識を理解する。 3. 看護政策管理に関する看護学研究の現状を討論する。 4. EBPの実現および新たな研究成果を産出する意義について意見を述べる。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業形態	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	ガイダンス 医療制度の基盤形成期	発表・討議	課題図書『日本の医療制度と政策』の精読と要約	巴山
2	医療制度の確立・拡張期			
3	医療制度の改革期			
4	医療制度・政策の国際比較			
5	米国の医療制度改革			
6	スウェーデンの医療制度改革と日本への示唆			
7	医療保険制度の基本問題			
8	各医療保険制度の構造と政策課題			
9	医療提供制度の構造と改革の方向性			
10	医療提供の改革手法			
11	看護政策管理に関連する基礎知識と理論 ・組織とは ・管理とは	講義・討議	関連文献の検索・精読	
12	看護政策管理に関連する基礎知識と理論 ・看護関連法規の歴史的変遷 ・看護関連法規の成立と政策過程			

	13	看護実践現場における、看護政策管理上の課題を明らかにする。		看護実践・教育実践上の問題を焦点化する	
	14	課題に関する文献検討の結果を発表し、討議する。	発表・討議	発表資料の作成	
	15	看護政策管理に関する EBP の実現および新たな研究成果を産出する意義について討議する。	全体討議	学習に対する自己評価	
	■終了後レポートの課題『看護政策管理論を通して学んだこと』 研究成果を踏まえ、看護政策管理に関する課題の解決に向けた提言を論述する。				
評価方法	発表と資料（20%）、終了後レポート（80%）				
参考書 参考文献等	島崎謙治：日本の医療　制度と政策，東京大学出版会，2011 見藤隆子，石田昌宏，大串正樹他：看護職者のための政策過程，日本看護協会出版会，2007				
学習相談 助言体制	学生個々の必要性に応じて相談・支援を行う。				
備考					

科目区分	共通科目			聴　講	可
授業科目名	診療放射線学特論			科目履修	可
科目番号	M02001	クラス番号	M1		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	１・２年次　前期セメスター	単　位	2 単位　30 時間		
科目責任者	下瀬川正幸	そ の 他			
担当教員	下瀬川正幸　　柏倉健一　　倉石政彦				
授業の概要	診療放射線学は、医学や理工学的要素を高度に応用することによって生まれた新しい学問領域であり、放射線画像検査学並びに放射線治療学を基本に人々の健康と福祉の向上に貢献することを目的とした総合的かつ学際的な科学である。近年、コンピュータ技術の臨床応用における技術革新がめざましく、新たな画像検査法や画像処理方法などの臨床応用が次々と開発され、スタンダードな X 線検査から多検出器を用いた CT や、機能画像を描出する MRI 検査など様々な機器が用いられている。本特論では、診療放射線学におけるその概要と特質について歴史的、内容分類的に概観する。 また、放射線学と診療放射線技師の役割と機能との関係について検討する。さらに、診療放射線学教育の進め方、カリキュラム編成、教育評価について考察し、診療放射線学における高度専門職業人養成と高等教育の特質を踏まえた、診療放射線学部運営の実践について考察する。				
学科目的 学科目標 (評価基準)	診療放射線学の歴史と現状を概観し、放射線画像検査学、放射線治療学の概要を学ぶ 1.　診療放射線学と診療放射線技師との関係を概観し、役割と機能を論述できる。 2.　診療放射線技師教育におけるカリキュラム編成、教育評価について論述できる 3.　診療放射線学部及び研究科の運営について理解する。				
授業の内容と方法	以下のテーマについて関連の文献を収集、要約、発表、質疑を行う。(抄読形式) 1.　診療放射線学の歴史 診療放射線学の歴史、放射線の医療における役割について 2.　放射線画像検査の変遷Ⅰ 診療放射線技師が扱う診療画像検査機器について 3.　放射線画像検査の変遷Ⅱ 診療放射線技師が行う検査方法について 4.　放射線治療の変遷Ⅰ 診療放射線技師が扱う放射線治療機器について 5.　放射線治療の変遷Ⅱ 診療放射線技師が行う治療方法について 6.　放射線管理 放射線障害と防護、その管理の概要について 7.　診療放射線技師養成学校の変遷 診療放射線技師の歴史的編成と学校教育について 8.　診療放射線技師養成の歴史と教育Ⅰ 診療放射線技師法指定規則による教育カリキュラムについて 9.　診療放射線技師養成の歴史と教育Ⅱ 大学設置基準による大学教育カリキュラムについて 10.　診療放射線技師養成の歴史と教育Ⅲ 統合カリキュラム編成法による診療放射線学の体系化について 11.　高度医療専門職教育 職業人としての高度医療専門職を教育する意義について 12.　診療放射線学教育Ⅰ 授業計画の立案と評価方法について 13.　診療放射線学教育Ⅱ 授業計画の立案と評価の実践 14.　診療放射線学部・研究科の運営 大学教育における大学自治、組織運営、委員会活動について 15.　診療放射線学とは 学問的体系化における診療放射線学の意義について				
評価方法	文献の選択、発表、質疑への対応等を総合的に評価する。				
教　科　書	指定しない。				
参　考　書 参考文献等	医療放射線技術学概論講義　山下一也　日本放射線技師会出版会 大学教育学　京都大学高等教育研究開発センター編　培風館				
備　　考	将来、診療放射線技師教育に携わる予定である学生は、履修すること。				

科目区分	共通科目			聴　講	不可
授業科目名	放射線医療統計解析学			科目履修	不可
科目番号	M02002	クラス番号	M1		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	１・２年次　前期セメスター	単　位	2 単位　30 時間		
科目責任者	倉石政彦	そ の 他			
担当教員	倉石政彦				
授業の概要	放射線医療における事象の生起原因及び過程の解析は、放射線被曝の最適化・合理化に必要であり、加えて、安寧な医療提供を推進するためにもプロセス解析は必要不可欠である。医療の対象は千差万別な人間であり、個々人の特性等に由来する不確定部分が存在することに加え、人間を対象とした実験は避ける必要があることから、統計学的解析が必要となる。このため本科目では、統計モデルの選択基準および因果関係を捕捉するための多変量解析について、考え方と実際的な適用について学習する。特に臨床において得られる量的データと質的データが混在する場合の解析法および数値データをカテゴリカルデータに変換した場合の解析法について、統計調査の設計段階から演習を通して学習する。				
学科目的 学科目標 （評価基準）	放射線医療における統計解析の意義を理解し、目的に即した結果を得るための調査設計及び解析、解釈について学ぶ。 １）データの水準及び解析目的に合致した統計解析手法を適切に選択・適用できる。 ２）統計モデルについて結果の精度に基づいた解釈ができる。 ３）数量化理論の考え方、意義に基づいた解析ができる。				
授業の内容と方法	1.　放射線医療領域のデータ 質的データ・量的データなどのデータの種類と水準について理解する 2.　相関分析：画質改善に寄与する因子とその重み 単相関、重相関、偏相関について理解し、適切な使用ができるようにする 3.　判別分析：撮影装置による画像の差異 分散及び相関比の理解を深め、判別関数の意義と使用法を習得する 4.　分散分析：前処置、造影剤濃度の違いによる消化管画像の差異 一次元配置分散分析から多次元配置分散分析の理論と実際的手技を習得する 5.　データの要約：生活習慣と骨量 因子分析、主成分分析の理論を学び、両分析法の違いを理解する 6.　回帰分析：PDD（深部量百分率）曲線 非線形数式モデルの最尤推定法の理論と実際的手技を習得する 7.　情報量基準 数式モデルの妥当性の検討理論を学び、数式モデルの意義を考察する 8.　放射線医療に関する調査研究 研究モデルに適合した研究方法の適用について学ぶ 9.　質問紙調査法：カリキュラム改定に関する調査 調査目的に基づいた、調査計画の立案について考察する 10.　心理量の測定法：診療放射線技師のイメージ解析 質的データに関する意味微分法及び主成分分析法について理解する 11.　数量化理論の考え方 数量化・カテゴリー化の意義と解析理論について学ぶ 12.　数量化理論１類：骨量解析 データ水準の変更（体格等の測定データのカテゴリー化）の意義を理解する 13.　数量化理論２類：骨量解析 数量化２類の理論と意義を理解する 14.　数量化理論３類：骨量解析 数量化３類を質的データの因子分析と捉え、その意義を理解する 15.　討論 各学生の研究データ及び解析方法について討論により理解を深め、適正化を図る				
評価方法	演習への取り組み、レポート及び試験の結果を総合的に評価する。				
教科書	指定しない。印刷物を配付する。				
参考書 参考文献等	指定しない。				
備　考	Excel、SPSS 及び KaleidaGraph を使用する。				

科目区分	共通科目			聴　講	可
授業科目名	放射線画像解剖学特論			科目履修	可
科目番号	M02003	クラス番号	M1		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	１・２年次　前期セメスター	単　位	2 単位　30 時間		
科目責任者	柏倉健一	そ の 他			
担当教員	柏倉健一				
授業の概要	診療放射線学に求められる自立的な検査の遂行に必要な画像解剖学について学習する。人体解剖学の理解を基礎とし、人体内部の正常な形態と構造が単純 X 線、造影検査、MRI、CT、核医学、超音波等の各モダリティ画像でいかに表現されるか、その特徴及び差異について演習形式で学ぶ。各画像上の臓器・組織の位置関係を 3 次元的に対比させることにより、各々の対応関係について理解を深める。また、各モダリティの撮像原理・特徴と得られた正常解剖画像とを比較し、撮像条件の違い、アーチファクト等により臓器・組織の描出態様がどのように変化するかについて学習する。本演習を通して、医用画像に表現される生体内の形態と構造の特徴について学ぶと共に、診断、治療等に必要な画像情報の種類・特性を理解し、自らの撮像技術、画像処理能力の向上につなげる。また、適切な臨床画像を診断医に提供できているか否か各自で判断できる能力を養う。				
学科目的 学科目標 (評価基準)	１，医用画像に表現される生体内の形態と構造を人体解剖と対比し 3 次元的に理解する。 ２，各医用画像の画像特性の違いについて理解する。 ３，診断、治療目的に応じた適切な臨床画像について考察できるようにする。				
授業の内容と方法	1.　人体解剖の基礎 ：人体解剖学の概説：演習の目的、進め方について説明する。 2.　脳神経系解剖 ：脳神経系の人体解剖構造の名称、位置関係等について学習する。 3.　骨軟部系・循環器系解剖 ：骨軟部系・循環器系の人体解剖構造の名称、位置関係等について学習する。 4.　胸・腹部解剖 ：胸部・腹部の人体解剖構造の名称、位置関係等について学習する。 5.　脳神経系画像解剖１ ：脳神経系の CT,MRI 画像の特徴について解剖構造と比較し学習する。 6.　脳神経系画像解剖２ :脳神経系の CT,MRI 以外の解剖画像の特徴について解剖構造と比較し学習する。 7.　骨軟部系画像解剖１ ：骨軟部系の単純 X 線画像の特徴について解剖構造と比較し学習する。 8.　骨軟部系画像解剖２ ：骨軟部系の X 線画像以外の画像の特徴について解剖構造と比較し学習する。 9.　循環器系画像解剖１ ：循環器系の血管造影画像、核医学画像の特徴について学習する。 10.　循環器系画像解剖２ ：循環器系のその他の解剖画像の特徴について解剖構造と比較し学習する。 11.　胸部画像解剖１ ：胸部の単純 X 線画像の特徴について解剖構造と比較し学習する。 12.　胸部画像解剖２ ：胸部の CT,MRI 画像の特徴について解剖構造と比較し学習する。 13.　腹部画像解剖１ ：腹部の単純 X 線画像、超音波画像の特徴について解剖構造と比較し学習する。 14.　腹部画像解剖２ ：腹部の CT,MRI 画像の特徴について解剖構造と比較し学習する。 15.　まとめ、総合討論 ：本演習を通して習得した知識について、討論を通じて整理・まとめをする。				
評価方法	演習時間中の質疑応答及び理解度、レポート等により総合評価をする。				
教科書	指定しない。				
参考書 参考文献等	指定しない。				
備　考					

科目区分	共通科目			聴　講	可
授業科目名	放射線学シミュレータ特論			科目履修	可
科目番号	M02006	クラス番号	M1		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	１・２年次　前期セメスター	単　位	2 単位　30 時間		
科目責任者	堀　謙太	そ の 他			
担当教員	堀　謙太・下瀬川正幸				
授業の概要	診療放射線学分野におけるコンピュータ・シミュレーションの設計、開発、利活用の方法論について学ぶ。コンピュータ・シミュレーションとは、様々な現象をコンピュータ上に擬似的に現出させることであり、このためには対象とする現象をコンピュータのプログラムとしてモデル化する必要がある。一方で、あらゆる現象をすべてモデル化することは不可能であり、対象の現象をどこまで詳しくモデル化するかを、シミュレーションの目的と照らし合わせて考える必要がある。本授業科目では、診療放射線学分野におけるシミュレーションに必要となる生体と放射線、電磁波等の相互作用モデルを構築するための基本的な考え方を学ぶ。また、シミュレーション技術の利活用について、診療放射線学教育への応用を題材とし、シミュレーション教材の作成技術およびシミュレーション教育プログラムの構築法について学ぶ。				
学科目的 学科目標 (評価基準)	コンピュータ・シミュレーションの基本的な考え方を理解する。その上で、診療放射線学分野を対象とし、最新の研究動向の調査を通じて、シミュレーションモデル構築の方法論、および、シミュレーション教育プログラム構築の方法論の基礎を理解する。				
授業の内容と方法	1. コンピュータ・シミュレーションによる教育プログラムの概要 診療放射線学教育におけるコンピュータ・シミュレーションについて考察する 2. コンピュータ・シミュレーションの構成 教育用のコンピュータ・シミュレーションシステムの構成について考察する 3. 数式によるシミュレーションモデル表現の基礎 シミュレーションモデルの機能要件と構成について演習する 4. 常微分方程式によるシミュレーションモデル表現 常微分方程式によるシミュレーションモデルの表現と処理について演習する 5. 偏微分方程式によるシミュレーションモデル表現 偏微分方程式によるシミュレーションモデルの表現と処理について演習する 6. 連立方程式によるシミュレーションモデル表現 I 連立方程式によるシミュレーションモデルの表現と処理について演習する 7. 連立方程式によるシミュレーションモデル表現 II 連立方程式モデルの行列演算によるモデル計算手法について演習する 8. 有限要素法によるシミュレーションモデル表現 有限要素法によるシミュレーションモデルの表現と処理について演習する 9. コンピュータ・シミュレーションにおける計算誤差の推定と制御 コンピュータ・シミュレーションにおける数値計算誤差と抑制方法について演習する 10. 診療放射線学分野におけるコンピュータ・シミュレーション 1：放射線透視画像 放射線透視画像撮像シミュレーションの方法論と技術動向について調査する 11. 診療放射線学分野におけるコンピュータ・シミュレーション II：X 線 CT X 線 CT 撮像シミュレーションの方法論と技術動向について調査する 12. 診療放射線学分野におけるコンピュータ・シミュレーション III：MRI MRI 撮像シミュレーションの方法論と技術動向について調査する 13. 診療放射線学分野におけるコンピュータ・シミュレーション教育の実際 診療放射線学教育におけるコンピュータ・シミュレーション技術の現状を調査する 14. 診療放射線学教育のためのコンピュータ・シミュレーション教材の検討 実際の授業を想定した教育カリキュラムとシミュレーション教材について検討する 15. 診療放射線学教育のためのコンピュータ・シミュレーション教材の評価 検討した教育プログラムとシミュレーション教材について評価・討論する				
評価方法	演習課題、文献調査報告、レポート提出				
教科書	指定しない。印刷物を配付する。				
参考書 参考文献等	Java で学ぶシミュレーションの基礎　峯村吉泰　森北出版 Clinical Simulation: Operations, Engineering, and Management　R.Kyle, W.Murray Academic Press				
備　考					

科目区分	共通科目			聴　講	不可
授業科目名	保健医療特論			科目履修	不可
科目番号	M02007	クラス番号	M1		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	１・２年次　後期セメスター	単　位	２単位　30 時間		
科目責任者	倉石政彦	そ　の　他			
担当教員	倉石政彦・堀　謙太				
授業の概要	この演習では、診療放射線学研究において特に重要となる医療倫理や医療情報について扱う。 （オムニバス方式／全１５回） （倉石政彦／　８回） 保健医療における倫理的問題に視座を置き、人間として保健医療に関わることの重要性について学ぶ。また、チームリーダとして様々な場面における倫理的問題を事前に推測し回避する方法及び問題発生時の解決のための方法論を考察する。加えて、倫理的問題を中心として、ヒトを対象とした研究、動物を対象とした研究、個人情報を扱う上での特質について学び、研究計画立案時からの研究の進行に則した倫理問題について考察する。 （堀謙太／　８回） 保健医療分野における情報の流通の考え方について学ぶ。近年、導入が進んでいる病院情報システムや電子カルテなどは、元来、病院内で膨大な診療記録や医事会計情報などを効率よく管理するための仕組みであった。しかし、普及が進み運用が安定するにつれ、経営分析などのより高度な利活用方法が模索されるようになっている。一方で、保健医療情報は患者の個人情報の集まりであり、医療従事者一人一人が適切な保護・管理の必要性を十分に理解し、安全かつ効率的に運用する体制を協力して作り上げることが必要である。本授業科目では、保健医療現場における情報の流通を、医療現場、病院運営、医事会計等の多角的な側面からとらえ、保健医療情報を有効に利活用するための方法論と仕組み、および、保健医療情報の管理・運用を安全かつ効率よく行うための方法論と仕組みについて考察する。				
学科目的 学科目標 （評価基準）	診療放射線学研究において特に重要な医療倫理、研究倫理及び保健医療情報の特質を理解し、適切な配慮、運用法について考察する。 １）　保健医療における専門職者の役割と責務を理解し、倫理的配慮ができる。 ２）　臨床現場のリスクマネジメント計画を策定できる。 ３）　保健医療における情報流通システムを理解し、有効に活用できる。 ４）　保健医療における情報管理システムを理解し、安全に運用できる。				
授業の内容と方法	1.　専門職業人（倉石） 専門職業人の自律について理解し、その基盤としての倫理の考え方を考察する 2.　保健医療における専門職業人（倉石） クライアントの立場と情報に焦点をおいて、保健医療専門職の特殊性を考察する 3.　保健医療におけるリスク（倉石） リスク要因を環境、クライアントの動作・心理及びクライアントとの対応の観点から考察する 4.　リスクマネジメント計画（倉石） 組織的なリスクマネジメントシステムとその構成員の役割と機能について考察する 5.　研究活動における倫理問題（倉石） 保健医療研究における倫理原則、倫理指針について理解し、個別施設における倫理規定を考察する 6.　診療放射線学研究における情報（倉石） 研究の対象となる画像情報、クライアントの情報及び施設・医療者の情報の取扱いについて考察する 7.　保健医療における研究と利益（倉石） 研究の成果及びその受益者という観点から保健医療研究の在り方について考察する 8.　情報科学（堀） 「情報」の本当の意味について再確認し、コンピュータによる情報の表現の方法について考察する 9.　保健医療と情報システム（堀） 保健医療における情報流通と情報システムの役割および構成について考察する 10.　情報セキュリティ（堀） 一般的な情報セキュリティの構成と最新技術について調査し、考察する 11.　保健医療と情報セキュリティ（堀） 保健医療における情報セキュリティリスクの要因と対策について調査し、考察する 12.　情報システムと保健医療支援（堀） 医療機器管理、医療情報支援等、保健医療における情報システムの最新状況について調査する 13.　保健医療情報の利活用（堀） 医療データ分析、医療経営分析、医療安全管理等、保健医療における情報活用について調査する 14.　保健医療情報連携（堀） 広域電子カルテ、遠隔医療、地域医療連携等、保健医療における他機関との情報連携について調査する 15.　討論（倉石・堀） 保健医療における情報と倫理の観点から、各学生の研究の進め方について討論する				
評価方法	授業への参加状況とレポートにより評価する。				
教　科　書	指定しない。印刷物を配付する。				
参　考　書 参考文献等	指定しない。				
備　　考					

科目区分	共通科目			聴講	可
授業科目名	保健医療安全学特論			科目履修	可
科目番号	M02008	クラス番号	M1		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	１・２年次　後期セメスター	単位	２単位　30時間		
科目責任者	上原真澄	その他			
担当教員	上原真澄、高橋康幸				
授業の概要	医療従事者による機器操作や患者ケアにおける過失を、医療従事者の単なる操作ミス、あるいはケアレスミスとしてとらえるのではなく、過失を起こす多くの要因が潜む職場環境におかれた人の心理や状況を総合的に把握することによって本質的な理解及び事故防止対策が生まれる。医療安全には、心理学や人間工学などの分野を含めた学際的な対策が望まれる。そのためには、医療従事者の過失を人対人、人対インターフェイスの問題として考えることが重要となる。本科目では、医療現場の現状や特殊性を理解し、医療安全に必要な組織づくりや医療事故防止対策の実際などについて学ぶ。 また、コメディカル専門職の高学歴化（４年制大学及び大学院修士課程、博士課程修了者）に伴い病医院の経営管理に参入するケースが、年々増加する傾向にある。このような状況を踏まえ、コメディカル・スタッフが、今後の病医院管理にどのように関与し、マネジメントしていくかを考察することが重要になる。このためには、病院経営概論としての欧米諸国医療の現状、我が国の医療政策及び診療報酬などの現状、各部門の人事管理等の課題、今後の検査装置等について把握する必要がある。さらに、患者中心医療の質の向上において高度な専門職種技術を提供するためにも、医療を支えるための一領域である医療経済学や臨床経済学の手法などを中心に演習し、各専門職の臨床医用技術等の関連性について理解を深める。				
学科目的 学科目標 （評価基準）	学科目的：医療安全への組織づくりや医療事故防止対策実際、患者中心とした病医院経営と人事管理などを理解する。 学科目標：欧米諸国医療の現状を把握し、我が国における医療との比較分析を行う。さらに、医療安全や診療報酬などを把握し、医療経済学や臨床経済学を基にした病医院経営（各専門職の関連性など）について履修する。				
授業の内容と方法	１．医療倫理とは バイオエシックス（生命倫理学）など医療従事者の倫理について演習する。 ２．医療法と関連法令 医療法と関連する法令などの経年変化について演習する。 ３．医療法とインフォームドコンセントについて インフォームドコンセントの概要、患者の心理に基づく接遇、医療過誤について演習する。 ４．医療事故と安全管理への取り組み　１ Harvard Medical Practice Study、安全管理組織とリスクマネジメントについて演習する。 ５．医療事故と安全管理への取り組み　２ 画像診断部門および放射線治療部門それぞれにおける事故防止対策について演習する。 ６．医療事故と安全管理への取り組み　３ 事故のリスク、インシデント・アクシデント事例、訴訟事例について演習する。 ７．医療保障制度について 社会保険、介護保険など医療保障制度について演習する。 ８．諸外国の医療制度について 諸外国の経験に学ぶ医療制度改革について演習する。 ９．病院経営概論　１ 医療経済学、医療経営、健康関連 QOL について演習する。 １０．病院経営概論　２ Diagnosis Procedure Combination、Private Finance Initiative などについて演習する。 １１．医療経済評価 Cost-Effectiveness、Cost-Benefit Analysis などについて演習する。 １２．医療行為の効果の評価 Cost-Effectiveness における効果推定のためのモデルについて演習する。 １３．保健衛生行政へのアプローチ　１ 群馬県をはじめとする各都道府県の保健衛生行政業務について演習する。 １４．保健衛生行政へのアプローチ　２ 診療放射線技師と医療監視などの保健衛生行政の係わりについて演習する。 １５．保健衛生行政へのアプローチ　３ 医療法施行細則、パブリックコメント制度などについて演習する。				
評価方法	演習態度と出席率及び課題レポートにより、総合評価を行う。				
教科書	１．山口一郎他：医療放射線　法令・立入検査手引書．ピラールプレス また、演習に関係するプリントを配付する。				
参考書 参考文献等	1.　医療経営教育協議会編：医療マネジメントー医療の質向上のための医療経営学ー．日経メディカル開発 2.　中島和江他：ヘルスケアリスクマネジメントー医療事故防止から診療記録開示までー．医学書院 3.　西村周三他：医療経済学の基礎理論と論点．勁草書房 4.　久繁哲徳他：臨床経済学ー医療・保健の経済的評価とその方法ー．篠原出版				
備考					

科目区分	専門科目			聴講	不可
授業科目名	実践看護学構築論Ⅰ（看護理論と看護実践）			科目履修	可
科目番号	MN0008	クラス番号	MN1		
授業形式	演習・講義	必修選択区分	選択必修		
開講時期	1年次・前期	単位	２単位　60時間		
科目責任者	中西陽子	その他			
担当教員	肥後すみ子　行田智子　横山京子　田村文子　中西陽子　狩野太郎　齋藤　基　巴山玉蓮　石川良樹　宮崎有紀子　高井ゆかり				
授業の概要	本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に意義を見出すことのできる人材育成に必要な科目として、実践看護学構築論Ⅰ（看護理論と看護実践）を提供する。学生は、実践看護学構築論Ⅰ（看護理論と看護実践）を通し、EBPの根拠として既に活用されている看護学及び関連学問領域の理論・主要概念への理解を深める。また、これらの理論や概念を用い、看護実践上の問題を分析することを通し、既存の理論や概念の活用可能性と限界を理解する。このことを通し、EBPの実現に向け、看護学を充実・発展・革新させていくことの必要性を理解する。学生は、自己の興味・関心に基づき担当教員を選択し、グループを形成する。授業は、形成されたグループ毎に展開する。教員は、看護技術学、生涯発達看護学（母胎期、乳幼児期・学童期、思春期、成人期、老年期）、地域健康看護学、看護政策管理学という各々が専門とする内容を織り込みながら担当グループの授業を展開する。 （肥後すみ子） 講義を通して、看護実践に活用可能な主要概念（人間、環境、健康、ニード、安全、安楽、自立など）及び看護理論（ヘンダーソン、キング、ウイーンデンバック、ベナーなど）、関連領域の理論（マズローなど）を紹介する。また、それらの主要概念や理論を用いた研究論文の精読・批評を支援・助言する。 （行田智子） 講義を通して、母胎期にある人々を対象とした看護実践に活用可能な主要概念（ヘルスプロモーション，ウエルネス）及び看護理論（オレム）、関連領域の理論（ゲゼルの発達理論）を紹介する。また、それらの主要概念や理論を用いた研究論文の精読・批評を支援・助言する。 （横山京子） 講義を通して、乳幼児期・学童期にある人々を対象とした看護実践に活用可能な主要概念（国際生活機能分類）及び看護理論（ヘンダーソン、キング）、関連領域の理論（エリクソン、ピアジェ、ボウルビイ、ハビガーストの発達理論など）を紹介する。また、それらの主要概念や理論を用いた研究論文の精読・批評を支援・助言する。 （田村文子） 講義を通して、思春期にある人々、あるいは、精神疾患を持つ人々を対象とした看護実践に活用可能な主要概念（自己概念、アイデンティティなど）及び看護理論（ペプロー、ロイなど）、関連領域の理論（エリクソン、レビンソンの発達理論など）を紹介する。また、それらの主要概念や理論を用いた研究論文の精読・批評を支援・助言する。 （中西陽子） 講義を通して、成人期にある人々を対象とした看護実践に活用可能な主要概念（ライフスタイルなど）及び看護理論（オレム、ロイなど）、関連領域の理論（死の受容、ストレス理論、エリクソン・レビンソンの発達理論など）を紹介する。また、それらの主要概念や理論を用いた研究論文の精読・批評を支援・助言する。 （狩野太郎） 講義を通して、老年期にある人々を対象とした看護実践に活用可能な主要概念（ICF、エイジイズム、アドボカシー、ソーシャルサポートなど）及び看護理論（ナイチンゲール、オレム、ベナーなど）、関連領域の理論（エリクソン、ハヴィガーストの発達理論、ストレングスモデルなど）を紹介する。また、それらの主要概念や理論を用いた研究論文の精読・批評を支援・助言する。 （齋藤　基） 講義を通して、地域に暮らす人々を対象とした看護実践に活用可能な主要概念（ヘルスプロモーション，ソーシャルサポート）及び看護理論（コミュニティ・アズ・パートナーモデル）、関連領域の理論を紹介する。また、それらの主要概念や理論を用いた研究論文の精読・批評を支援・助言する。 （巴山玉蓮） 講義を通して、看護を提供するあらゆる場にある人々や看護職を対象とした看護実践ならびに看護政策管理に活用可能な主要概念（ポリシー、ストラテジー、マネージメント、イノベーションなど）及び看護理論（ナイチンゲール、オレム、ベナー）、関連領域の理論（リーダーシップ論、人的資源論、近代組織論など）を紹介する。また、それらの主要概念や理論を用いた研究論文の精読・批評を支援・助言する。				

（石川良樹）
講義を通して、運動機能の維持・回復に関連する看護実践に活用可能な主要概念（筋発生、筋再生、神経発生、シナプス形成など）及び検証のための実験手法･理論（遺伝子導入、遺伝子ノックアウト、電子顕微鏡、蛍光顕微鏡、タンパク質１分子解析など）を紹介する。また、それらに関連する研究論文の精読･批評を支援･助言する。
（宮崎有紀子）
講義を通して、地域で生活する人々を対象とした看護実践に活用可能な主要概念（保健行動，行動変容など）及び看護理論（コミュニティ・アズ・パートナーモデルなど）、関連領域の理論（ヘルスビリーフモデル，ステージ理論など）を紹介する。また、それらの主要概念や理論を用いた研究論文の精読・批評を支援・助言する。
（高井ゆかり）
講義を通して、老年期にある人々を対象とした看護実践に活用可能な主要概念（サクセスフルエイジング、国際生活機能分類など）及び看護理論（ベナー、パースィなど）、関連領域の理論（Developmental Tasks、Fear-avoidance Model、家族システム理論、死の受容など）を紹介する。また、それらの主要概念や理論を用いた研究論文の精読・批評を支援・助言する。

学科目的
科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の前提となる諸理論と概念を学習し、看護実践の質向上に向けて新たに必要となる理論・概念を考察する。

学科目標
1. 看護実践上の課題解決に活用可能な理論・概念の特徴を説明する。
2. 既存の理論・概念を用いて、看護実践上の問題を明らかにする。
3. 1.2.を通し、実践上の問題解決過程に理論を適用する意義と課題を述べる。

授業の内容と方法

回	授業内容	授業形態	事前･事後学習（学習課題）	担当
1	看護実践の基盤となる看護理論の特徴と機能(1)	講義	関心のある理論の学習	グループのテーマにより担当教員を決定する
2	看護実践の基盤となる看護理論の特徴と機能(2)	発表・講義	理論選択･精読	
3	看護実践の基盤となる看護理論の特徴と機能(3)			
4	看護理論を活用した看護学研究(1)	成果発表・討議	研究論文の選択・精読	
5	看護理論を活用した看護学研究(2)			
6	看護実践の基盤となる関連学問領域の理論の特徴と機能(1)	発表・講義	理論選択･精読	
7	看護実践の基盤となる関連学問領域の理論の特徴と機能(2)			
8	看護実践の基盤となる関連学問領域の理論の特徴と機能(3)			
9	関連学問領域の理論を活用した看護学研究(1)	成果発表・討議	研究論文の選択・精読・発表	
10	関連学問領域の理論を活用した看護学研究(2)			
11	理論に基づく看護実践上の問題解決(1) ：問題の明確化	経過報告・討議	看護実践において現実に直面した課題を看護理論に基づき抽象化し解釈する	
12	理論に基づく看護実践上の問題解決(2) ：適用する理論の選択			
13	理論に基づく看護実践上の問題解決(3) ：プロセスレコードの作成			
14	理論に基づく看護実践上の問題解決(4) ：分析結果			
15	理論に基づく看護実践上の問題解決(5) ：最終報告	最終報告・討議	問題解決の方法の明確化と評価	

■終了後レポートの課題『実践看護学構築論Ⅰ（看護理論と看護実践）を通して学んだこと』
実践上の問題解決過程に看護理論及び関連学問領域の理論を適用する意義と適用に向けた課題を述べる。

評価方法
経過報告・成果発表（40%），討議（20%），終了後レポート（40%）

参考書 参考文献等

学習相談 助言体制
学生個々の必要性に応じて質問に応じるなどの相談・支援を行う。

備考
実践看護学を主専攻とする学生は必ず履修する。

科目区分	専門科目			聴講	不可
授業科目名	実践看護学構築論Ⅱ（看護学の革新と看護研究）			科目履修	可
科目番号	MN0009	クラス番号	MN1		
授業形式	演習	必修選択区分	選択必修		
開講時期	1年次・後期	単位	２単位　60時間		
科目責任者	中西陽子	その他			
担当教員	肥後すみ子　行田智子　横山京子　田村文子　中西陽子　狩野太郎　齋藤　基 巴山玉蓮　石川良樹　宮崎有紀子　高井ゆかり　廣瀬規代美　大澤真奈美　飯田苗恵				
授業の概要	本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に意義を見出すことのできる人材育成に必要な科目として、実践看護学構築論Ⅱ（看護学の革新と看護研究）を提供する。実践看護学構築論Ⅱ（看護学の革新と看護研究）を通し、学生は、実践看護学構築論Ⅰ（看護理論と看護実践）で得た知識を前提とし、EBP の実現に向け、あらたに産出する必要のある理論・知識・技術を模索する。このことを通し、EBP の実現に向け、看護学を充実・発展・革新させていくことの必要性を理解する。具体的には、特別研究のテーマとの関連から EBP に活用可能な海外の看護学研究を探索・精読し、研究批評を通して今後あらたに必要となる看護学研究を焦点化する。実践看護学構築論Ⅱにおいて、教員各々は、特別研究指導を担当する学生を対象に授業を提供する。				
学科目的	特別研究のテーマとの関連から海外の看護学研究を探索・精読し、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向け、今後あらたに必要となる看護学研究を焦点化する。				
学科目標	1. 海外の看護学研究を選択し、批判的に精読する。 2. 選択した看護学研究のデザイン、概念枠組み及び研究方法論などを検討し、特別研究を遂行するために必要な知識を修得する。 3. 1.2.を通して、特別研究の課題を焦点化する。 4. 国際学会への参加の基盤となる英語力を修得する。				
授業の内容と方法	講読した海外の看護学研究に用いられている学術用語、研究方法、研究内容等を学習成果として資料に要約し、発表する。看護学研究の概念枠組みと研究方法論、今後、必要とされる看護学研究の観点から討論を展開する。				

回	授業内容	授業形態	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	講読文献の理解、研究批評(1)	発表・討論	特別研究と関連づけて文献を選択・精読する	特別研究指導を担当する教員
2	講読文献の理解、研究批評(2)			
3	講読文献の理解、研究批評(3)			
4	講読文献の理解、研究批評(4)			
5	講読文献の理解、研究批評(5)			
6	講読文献の理解、研究批評(6)			
7	講読文献の理解、研究批評(7)			
8	講読文献の理解、研究批評(8)			
9	講読文献の理解、研究批評(9)			
10	講読文献の理解、研究批評(10)			
11	講読文献の理解、研究批評(11)			
12	講読文献の理解、研究批評(12)			
13	講読文献の理解、研究批評(13)			
14	講読文献の理解、研究批評(14)			
15	講読文献の理解、研究批評(15)			

	■終了後レポートの課題『実践看護学構築論Ⅱ（看護学の革新と看護研究）を通して学んだこと』 15 回を通して講読した文献を再検討し、研究批評の内容に基づき、今後必要となる看護学研究の特徴を述べる。
評価方法	資料（40%）発表と討論（30%），終了後レポート（30%）
参考書 参考文献等	
学習相談 助言体制	学生個々の必要性に応じて質問に応じるなどの相談・支援を行う。
備考	実践看護学を主専攻とする学生は必ず履修する。

科目区分	専門科目			聴講	不可
授業科目名	看護学演習（実践看護学展開論）			科目履修	不可
科目番号	MN00010	クラス番号	MN1		
授業形式	演習	必修選択区分	選択必修		
開講時期	1年次・通年	単位	8単位　240時間		
科目責任者	横山京子	その他			
担当教員	肥後すみ子　行田智子　横山京子　田村文子　中西陽子　狩野太郎　齋藤　基　巴山玉蓮 石川良樹　宮崎有紀子　高井ゆかり　廣瀬規代美　大澤真奈美　飯田苗恵				
授業の概要	本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に意義を見出すことのできる人材育成に必要な科目として、看護学演習（実践看護学展開論）を提供する。看護学演習（実践看護学展開論）を通し、学生は、関心領域の文献のなかから EBP に活用可能な研究成果を選択し、その検証方法を検討する。選択した研究成果の検証を通し、EBP に耐えうる研究成果を産出する意義、EBP に耐えうる研究成果の要件を考察する。学生は、自己の興味・関心に基づき担当教員を選択し、グループを形成する。授業は、形成されたグループ毎に展開する。教員は、看護技術学、生涯発達看護学（母胎期、乳幼児期・学童期、思春期、成人期）、地域健康看護学、看護政策管理学という各々が専門とする内容を織り込みながら担当グループの授業を展開する。				
学科目的	国内外の看護学研究の現状の理解を前提とし、研究成果の検証を通し、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）に耐えうる研究成果の要件を理解する。				
学科目標	1. 国内外の研究論文を精読し、関心領域の研究成果の産出状況を理解する。 2. 自己の問題現象に既存の研究成果を適用し、その活用可能性を検証する。 3. 1. 2. を通し、新たな研究成果を産出する必要性を述べる。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業形態	事前・事後学習（学習課題）	担当
1～5	国内文献の講読 国内の看護学研究を講読し、学術用語、研究方法、研究内容等、理解した内容に基づき資料を作成する。作成した資料に基づき学習内容を発表し、看護学研究の概念枠組みと研究方法論、今後、必要とされる看護学研究の観点から担当教員と討論を展開する。	発表・討論	国内文献の精読・要約・批評	学生の興味･関心により担当教員を決定する
6～20	海外文献の講読 海外の看護学研究を講読し、学術用語、研究方法、研究内容等、理解した内容に基づき資料を作成する。作成した資料に基づき学習内容を発表し、看護学研究の概念枠組みと研究方法論、今後、必要とされる看護学研究の観点から担当教員と討論を展開する。	発表・討論	海外文献の精読・要約・批評	
21	研究成果の活用可能性の検証(1) －文献検討に基づく検証内容の焦点化①	発表・討論 発表・討論	検証内容の焦点化	
22	研究成果の活用可能性の検証(2) －文献検討に基づく検証内容の焦点化②			
23	研究成果の活用可能性の検証(3) －検証方法の検討①		検証方法の検討	
24	研究成果の活用可能性の検証(4) －検証方法の検討②			
25	研究成果の活用可能性の検証(5) －検証に向けた計画書の作成①		計画書の作成	

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td>26</td><td>研究成果の活用可能性の検証(6)
－検証に向けた計画書の作成②</td><td>発表・討論</td><td>計画書の作成</td><td></td></tr>
<tr><td>27</td><td>研究成果の活用可能性の検証(7)
－検証の実践①</td><td rowspan="2">演習</td><td rowspan="2">実践に向けた準備</td><td rowspan="5"></td></tr>
<tr><td>28</td><td>研究成果の活用可能性の検証(8)
－検証の実践②</td></tr>
<tr><td>29</td><td>研究成果の活用可能性の検証(9)
－検証結果の報告</td><td>発表・討論</td><td>検証結果の報告</td></tr>
<tr><td>30</td><td>研究成果の活用可能性の検証(10)
－検証過程・成果の評価</td><td>発表・討論</td><td>検証結果の報告・評価</td></tr>
</table>
■終了後レポートの課題『看護学演習（実践看護学展開論）を通して学んだこと』
文献検討、研究成果活用可能性の検証結果に基づき、看護実践の充実・発展・変革に向けた自己の研究課題を明確化する。
</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td>発表と討論（70%），終了後レポート（30%）</td></tr>
<tr><td>参考書
参考文献等</td><td></td></tr>
<tr><td>学習相談
助言体制</td><td>学生個々の必要性に応じて質問に応じるなどの相談・支援を行う。</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>実践看護学を主専攻とする学生は必ず履修する。</td></tr>
</table>

科目区分	専門科目			聴講	可
授業科目名	看護教育学Ⅰ（看護教育学の基礎知識）			科目履修	可
科目番号	MN00011	クラス番号	MN1		
授業形式	演習・講義	必修選択区分	選択必修		
開講時期	1年次・前期	単位	２単位　60時間		
科目責任者	山下暢子	その他			
担当教員	山下暢子　松田安弘　服部美香				
授業の概要	本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に意義を見出すことのできる人材育成に必要な科目として、看護教育学Ⅰ（看護教育学の基礎知識）を提供する。科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けては、科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE：Evidence-Based Nursing Education）が必要不可欠である。学生は、看護教育学Ⅰ（看護教育学の基礎知識）を通し、EBNEを展開するために必要な普遍的要素として、看護教育学の基礎知識を理解する。看護基礎教育・卒後教育・継続教育の前提となる看護教育学の理論に加え、関連学問領域の理論・主要概念を学習する。また、質の高い看護学教育の実現に向け、看護教育学を充実・発展・革新させていくことの意義を理解する。 具体的には、課題図書『看護教育学』の講読演習を展開し、看護教育学の歴史、看護教育制度、看護学教育課程、看護学教育組織運営論、看護学教育授業展開論、看護学教育評価論、看護継続教育論に関わる基礎知識を提供する。また、学生の発表内容を査定し、補完すべき知識を提供する。				
学科目的	看護基礎教育・卒後教育・継続教育の前提となる諸理論と主要概念、関連概念を学習し、多様な教育現象への適用を通し、学習成果として理論・概念への理解を深める。				
学科目標	1. 看護教育学の基礎知識を用いて、過去に遭遇した看護教育に関わる現象を説明する。 2. 1を通して、看護教育学の充実・発展・革新に向けた課題を述べる。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業形態	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	看護教育学創造への道(1) ：はじめに	講義	課題図書『看護教育学』の精読・要約	山下
2	看護教育学創造への道(2) ：看護教育学への模索 ：看護教育学研究の成果と蓄積	発表・講義		
3	看護教育制度論(1) ：看護教育制度の成り立ち			
4	看護教育制度論(2) ：看護教育制度の特徴，看護教育制度と学位			
5	看護学教育課程論(1) ：看護学教育課程の体系化，教育目的・目標の設定，教育内容の選定			服部
6	看護学教育課程論(2) ：教育内容の組織化，教育内容の提供，教育評価			
7	看護学教育組織運営論 ：看護学教育組織運営論としての体系化 看護学教育組織運営論からみた看護学教育の諸問題	発表・講義		松田
8	看護学教育授業展開論(1) ：看護学教育における授業展開を支える理論・知識			服部
9	看護学教育授業展開論(2) ：看護学教育における授業展開			

	10	看護学教育授業展開論(3) ：対象理解に基づく看護学実習展開			山下
	11	看護学教育授業展開論(4) ：教授活動理解に基づく看護学実習展開			服部
	12	看護学教育評価論(1) ：教育評価			松田
	13	看護学教育評価論(2) ：看護学教育における授業評価の実際，大学の自己点検・評価の背景			
	14	看護継続教育論(1) ：看護継続教育の領域、関連用語及び概念 看護継続教育の対象と学習ニード 看護職者が所属する施設の教育としての「院内教育」			
	15	看護継続教育論(2) ：看護職者が所属する施設の教育としての「ファカルティ・ディベロップメント(FD)」			
	※終了後レポートの課題『看護教育学Ⅰ』を通して学んだこと 15 回の授業を通して得た知識に基づき、学生個々が過去に遭遇した「看護教育」にかかわる問題を明確化し、それを解決するために必要な課題を述べる。				
評価方法	発表（40%），討議（20%），終了後レポート（40%）				
参考書 参考文献等	杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学　第５版　増補版，医学書院，2014.				
学習相談 助言体制	学生個々の必要性に応じて質問に応じるなどの相談・支援を行う。				
備考	看護教育学を主専攻とする学生は必ず履修する。				

科目区分	専門科目			聴講	可
授業科目名	看護教育学Ⅱ（看護学教育を支える理論と知識）			科目履修	可
科目番号	MN00012	クラス番号	MN1		
授業形式	演習	必修選択区分	選択必修		
開講時期	1年次・後期	単位	2単位　60時間		
科目責任者	松田安弘	その他			
担当教員	松田安弘　山下暢子				
授業の概要	本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に意義を見出すことのできる人材育成に必要な科目として、看護教育学Ⅱ（看護学教育を支える理論と知識）を提供する。EBPの実現に向けては、科学的根拠に基づく看護学教育（Evidenced-Based Nursing Education：EBNE）が必要不可欠である。看護教育学Ⅱ（看護学教育を支える理論と知識）を通し、学生は、看護教育学Ⅰで得た知識を前提とし、EBNEのうち、医療機関・教育機関における教育コーディネーターとしての役割と機能を発揮するために必要な知識を修得する。具体的には、国内外の看護継続教育に関する諸理論を学習し、成人を対象とした教育の特徴を理解する。 具体的には、課題図書『成人教育の意味』、『成人教育の現代的実践ーペタゴジーからアンドラゴジーへー』、『看護学教育における授業展開』の講読演習を展開し、成人教育の原理と成人を対象とした授業展開に必要な基礎知識を提供する。また、学生の発表内容を査定し、補完すべき知識を提供する。				
学科目的	科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE：Evidence-Based Nursing Education）に必要な成人を対象とした教育に必要な基礎理論、教育コーディネーターとしての役割と機能の基礎知識を理解する。				
学科目標	1. 看護継続教育を展開するために必要な基礎知識を修得する。 2. 教育コーディネーターとして教育活動を展開するために必要な基本的知識を修得する。 3. 1.2.を前提とし、教育コーディネーターとしての自己の課題を述べる。				

授業の内容と方法

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	成人を対象とした教育の特徴を理解する 意義と必要性	講義	課題図書『成人教育の意味』の精読と要約	山下
2	成人教育の基礎理論(1) －学習者となるべき者へ －知性に対する信念を有する者へ	発表・討議		
3	成人教育の基礎理論(2) －力の使用について －自己表現の必要性について			
4	成人教育の基礎理論(3) －自由を欲する者へ －創造しようとする者へ			
5	成人教育の基礎理論(4) －鑑賞をしようとしている者たちへ －専門家主義の時代に			
6	成人教育の基礎理論(5) －共同的活動への原動力として －成人教育の方法について			
7	成人教育の現代的実践の基礎知識(1) －現代的実践とは何か －成人教育者の役割と使命とは －アンドラゴジーとは何か	発表・討議	課題図書『成人教育の現代的実践ーペタゴ	松田

	8	成人教育の現代的実践の基礎知識(2) －学習組織のための雰囲気と構造の確立 －プログラム計画におけるニーズと関心の診断		ジーからアンドラゴジーへ－』の精読と要約	松田
	9	成人教育の現代的実践の基礎知識(3) －目的と目標の定義 －包括的なプログラムのデザイン			
	10	成人教育の現代的実践の基礎知識(4) －包括的なプログラムの実施			
	11	成人教育の現代的実践の基礎知識(5) －包括的なプログラムの評価 －学習活動のデザインと運営			
	12	看護学教育における授業展開(1) －授業とは何か －授業展開のための基礎知識	発表・討議	課題図書『看護学教育における授業展開』の精読と要約	山下
	13	看護学教育における授業展開(2) －看護学の授業に臨む学生と教員の理解			
	14	看護学教育における授業展開(3) －看護学の講義と教授活動・学習活動 －看護学演習と教授活動・学習活動			松田
	15	看護学教育における授業展開(4) －看護学実習と教授活動・学習活動			
	■終了後レポートの課題『看護教育学Ⅱを通して学んだこと』 教育コーディネーターとして役割を果たすという観点から、自己の課題を論述する。				
評価方法	発表（40%），討議（20%），終了後レポート（40%）				
参考書 参考文献等	・エデュアード・リンデマン：成人教育の意味,学文社,1996. ・M.ノールズ：成人教育の現代的実践－ペタゴジーからアンドラゴジーへ－，鳳書房，2002. ・舟島なをみ監修：看護学教育における授業展開 質の高い講義・演習・実習の実現に向けて，医学書院,2013. ・杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学　第５版　増補版，医学書院，2014.				
学習相談 助言体制	学生個々の必要性に応じて質問に応じるなどの相談・支援を行う。				
備考	・看護教育学を主専攻とする学生は必ず履修する。				

科目区分	専門科目		聴講	可
授業科目名	看護学演習（看護教育学研究）		科目履修	可
科目番号	MN00013	クラス番号	MN1	
授業形式	演習	必修選択区分	選択必修	
開講時期	1年次・通年	単位	8単位　240時間	
科目責任者	松田安弘	その他		
担当教員	松田安弘　山下暢子			

授業の概要

本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に資する研究成果を産出できる人材育成に必要な科目として、看護学演習（看護教育学研究）を提供する。

受講者は、この科目を通し、看護教育学の理念を反映した研究についての理解を深め、看護教育学研究の遂行に必要な知識、技術、態度を修得する。また、関心領域の研究論文のなかからEBPに活用可能な国内及び海外の看護学研究を探索、精読し、研究批評を通して、看護現象や看護学教育に関わる現象を構成する知識・技術の現状を理解する。これらの学習を前提とし、看護実践・教育実践の質向上と看護職者個々人の発達に資する看護教育学研究の課題を焦点化する。

学科目的

看護教育学の理念を反映した研究についての理解を深め、看護教育学研究の遂行に必要な知識、技術、態度を修得する。また、特別研究のテーマとの関連から国内外の看護学研究を探索、精読し、研究批評を通して今後あらたに必要となる看護教育学研究を焦点化する。

学科目標

1．看護教育学研究の体系と看護教育学研究のための方法論を説明する。
2．国内・海外の看護学研究を選択し、批判的に精読する。
3．選択した研究に用いられている学術用語、研究方法、研究内容等を要約し、発表する。
4．1．2．3．を通して、今後必要とされる看護教育学研究の内容と自己の関心領域に関する研究への示唆を論述する。

授業の内容と方法

［学科目標1］前期セメスター（木／Ⅵ限）

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	課題図書『看護教育学研究』第1章	講義	看護教育学研究の関連文献を選択・精読する	松田
2	課題図書『看護教育学研究』第2章	発表・討論		
3	課題図書『看護教育学研究』第3章①			山下
4	課題図書『看護教育学研究』第3章②			
5	課題図書『看護教育学研究』第3章③			
6	課題図書『看護教育学研究』第4・5章			
7	課題図書『看護教育学研究』第6章①			松田
8	課題図書『看護教育学研究』第6章②			
9	課題図書『看護教育学研究』第7章①			
10	課題図書『看護教育学研究』第7章②			
11	課題図書『看護教育学研究』第7章③			
12	課題図書『看護教育学研究』第7章④			
13	課題図書『看護教育学研究』第7章⑤			山下
14	課題図書『看護教育学研究』第7章⑥			
15	課題図書『看護教育学研究』第7章⑦			

［学科目標2．3］前期セメスター（木／Ⅶ限）

■事前学習として、自己の興味・関心に基づき、医学中央雑誌及びCINAHLを用いて国内外の研究論文を検索、入手、精読し、批評する。選択した論文を事前に提出する。授業当日は、作成した資料を用いて、論文の概要と批評した内容を発表し、研究指導教員及び研究指導補助教員から助言を得る。

■講読した国内外の看護学研究に用いられている学術用語、研究方法、研究内容等を学習成果として資料に要約し、発表する。看護学研究の概念枠組みと研究方法論、今後、必要とされる看護学研究の観点から討論を展開する。

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
1	講読国内文献の理解、研究批評(1)	発表・討論	特別研究と関連づけて文献を選択・精読する	特別研究指導を担当する教員
2	講読国内文献の理解、研究批評(2)			
3	講読国内文献の理解、研究批評(3)			
4	講読国内文献の理解、研究批評(4)			
5	講読国内文献の理解、研究批評(5)			
6	講読海外文献の理解、研究批評(6)			
7	講読海外文献の理解、研究批評(7)			
8	講読海外文献の理解、研究批評(8)			
9	講読海外文献の理解、研究批評(9)			
10	講読海外文献の理解、研究批評(10)			
11	講読海外文献の理解、研究批評(11)			
12	講読海外文献の理解、研究批評(12)			
13	講読海外文献の理解、研究批評(13)			
14	講読海外文献の理解、研究批評(14)			
15	講読海外文献の理解、研究批評(15)			

［学科目標２．３］後期セメスター（火／Ⅵ・Ⅶ限）

回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
1・2	講読海外文献の理解、研究批評(1)	発表・討論	特別研究と関連づけて文献を選択・精読する	特別研究指導を担当する教員
3・4	講読海外文献の理解、研究批評(2)			
5・6	講読海外文献の理解、研究批評(3)			
7・8	講読海外文献の理解、研究批評(4)			
9・10	講読海外文献の理解、研究批評(5)			
11・12	講読海外文献の理解、研究批評(6)			
13・14	講読海外文献の理解、研究批評(7)			
15・16	講読海外文献の理解、研究批評(8)			
17・18	講読海外文献の理解、研究批評(9)			
19・20	講読海外文献の理解、研究批評(10)			
21・22	講読海外文献の理解、研究批評(11)			
23・24	講読海外文献の理解、研究批評(12)			
25・26	講読海外文献の理解、研究批評(13)			
27・28	講読海外文献の理解、研究批評(14)			
29・30	講読海外文献の理解、研究批評(15)			

■終了後レポートの課題『看護学演習（看護教育学研究)』を通して学んだこと
講読した文献を再検討し、研究批評の内容に基づき、今後必要となる看護学研究の特徴を述べる。

評価方法	発表内容・方法・態度（70%），終了後レポート（30%）
参考書 参考文献等	杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学　第５版　増補版，医学書院，2014 舟島なをみ：看護教育学研究　第２版，医学書院，2010. 舟島なをみ：質的研究への挑戦，第２版，医学書院，2007.
学習相談 助言体制	学生個々の必要性に応じて質問に応じるなどの相談・支援を行う。
備考	看護教育学を主専攻とする学生は必ず履修する。

科目区分	特別研究		聴講	不可
授業科目名	特別研究		科目履修	不可
科目番号	MN00014	クラス番号	MN1	
授業形式	演習	必修選択区分	必修	
開講時期	1・2 年次，通年	単位	12 単位　360 時間	
科目責任者	齋藤　基	その他		
担当教員	肥後すみ子　行田智子　横山京子　田村文子　中西陽子　狩野太郎　齋藤　基　巴山玉蓮 石川良樹　宮崎有紀子　高井ゆかり　松田安弘　山下暢子　廣瀬規代美　大澤真奈美 飯田苗恵　服部美香			
授業の概要	本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に資する研究成果を産出することのできる人材育成に必要な科目として、特別研究を提供する。特別研究を通し、学生は、質の高い看護実践、あるいは、質の高い看護学教育の提供という観点から、EBP 及び科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE：Evidence-Based Nursing Education）の根拠となりうる研究成果の産出を試みる。具体的には、個々の興味・関心に従い累積した学習成果を活用し、研究課題の焦点化、研究方法論の決定を行い、研究計画書を作成する。研究計画に基づくデータ収集・分析、論文作成、発表、評価に至るまでの一連の研究過程を通し、看護学研究の成果を産出・累積する意義を認めるとともに看護専門職としての研究的態度を修得する。 【実践看護学】 （肥後すみ子） 実践看護学領域の研究課題を選択した学生のうち、看護技術に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 ■主な研究課題 (1)看護技術におけるエビデンスの検証に関する研究 (2)入浴が生体の循環動態に及ぼす影響に関する研究 (3)初年次教育に関する研究 （行田智子） 実践看護学領域の研究課題を選択した学生のうち、妊婦・褥婦への看護、育児に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 ■主な研究課題 (1)親となる過程を促す妊娠期からの支援に関する研究 (2)妊娠期から産褥期の看護ケアに関する研究 (3)妊娠期から育児期にある母子と家族への支援に関する研究 （横山京子） 実践看護学領域の研究課題を選択した学生のうち、小児期にある人々への看護、小児看護学教育に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 ■主な研究課題 (1)小児看護学教育に関する研究 (2)小児医療に携わる看護師に関する研究 (3)看護基礎教育課程に編入学した学生の学習経験に関する研究 （田村文子） 実践看護学領域の研究課題を選択した学生のうち、思春期・青年期にある人々、精神障害を持つ人々への看護に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 ■主な研究課題 (1) 精神障害者の地域支援に関する研究 (2) 精神障害者をかかえる家族の障害受容に関する研究 (3) 精神看護学教育に関する研究 （中西陽子） 実践看護学領域の研究課題を選択した学生のうち、がん及び他疾患の急性期・慢性期・終末期にある人々とその家族への看護に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 ■主な研究課題 (1)慢性疾患患者の患者教育に関する研究 (2)がん終末期患者および家族の支援に関する研究 (3)遺族ケアに関する研究			

	（狩野太郎） 　実践看護学領域の研究課題を選択した学生のうち、老年看護学に関わる研究課題及びがん看護に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 ■主な研究課題 (1)高齢者が持つ身体・心理・社会的強みを引き出す看護援助に関する研究 (2)高齢者ケアを学ぶ学生およびケア従事者の高齢者イメージに関する研究 (3)がん患者の症状マネジメントおよび、高齢がん患者の看護援助に関する研究 （齋藤　基） 　実践看護学領域の研究課題を選択した学生のうち、地域看護活動、在宅看護活動に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 ■主な研究課題 (1)生活習慣病の保健指導に関する研究 (2)家族介護者の介護行動に関する研究 (3)地域看護活動における実践課題に関する研究 （巴山玉蓮） 　実践看護学領域の研究課題を選択した学生のうち、看護政策管理に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 ■主な研究課題 (1)看護職の意思決定に関する研究 (2)看護職のワーク・ライフ・バランスに関する研究 (3)潜在看護師の再就業に関する研究 （石川良樹） 　実践看護学領域の研究課題を選択した学生のうち、ロコモティブシンドローム等の運動機能の改善に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 ■主な研究課題 (1)運動刺激、外部刺激による筋組織、筋蛋白質の機能・発現回復に関する研究 (2)運動刺激、外部刺激による神経と筋肉の接合部再形成に関する研究 （宮崎有紀子） 　実践看護学領域の研究課題を選択した学生のうち、ヘルスプロモーション、研究づくり支援活動に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 ■主な研究課題 (1) 生活習慣および保健行動に関する研究 (2) 生活習慣要因と健康に関する研究 （高井ゆかり） 　実践看護学領域の研究課題を選択した学生のうち、老年看護活動や疼痛管理に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 ■主な研究課題 (1) 疼痛管理の実態およびシステム構築に関する研究 (2) 認知症高齢者とその家族員の経験探索に関する研究 (3) 多様な場で展開される高齢者へのケアの質向上に関する研究 【看護教育学】 （松田安弘） 　看護教育学領域の研究課題を選択した学生のうち、看護継続教育、教授＝学習過程、看護における少数者に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 ■主な研究課題 (1)看護における少数者に関する研究 (2)院内教育に関する研究 (3)教員の教授活動に関する研究 (4)学生の学習活動に関する研究

	（山下暢子） 看護教育学領域の研究課題を選択した学生のうち、看護基礎教育・継続教育、主に看護学実習指導に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 ■主な研究課題 (1) 看護学実習中の学習活動に関する研究 (2) 看護学実習中の教授活動に関する研究
学 科 目 的	研究課題の焦点化、データの収集・分析、論文作成、発表、評価に至る一連の研究過程を経験する。
学 科 目 標	1. 焦点化した研究課題の背景を述べる。 2. 研究目的・目標に合致した研究方法論を選択する。 3. 文献検討の結果に基づき、精度の高い研究計画書を作成する。 4. 既存の研究方法論を正確に適用し、データを収集・分析する。 5. 倫理的配慮に基づきデータを収集・分析する。 6. 構成要素に沿って研究論文を作成する。 7. 研究の概要を簡潔に説明する。 8. 看護専門職に必要な研究的態度を述べる。 9. 看護学研究の成果を産出・累積する意義を述べる。
授業の内容と方法	15 回／2 年のゼミ形式の授業を基本に論文指導を行う。

回	授業内容	授業形態	事前･事後学習（学習課題）	担当
1	【1 年次前期】 ①関連文献の精読を通して自己の興味・関心を焦点化し、研究課題を決定する。 【1 年次後期】 ②研究課題、研究方法論に関わる文献検討の結果に基づき、研究計画書を完成させる。 ③研究科委員会が指名する主査 1 名、副査 2 名による研究計画書の審査を受ける。 ④人を対象とする研究の場合は、倫理委員会に研究計画書を提出し、承認を得る。 ⑤倫理委員会の承認後、研究計画書に基づきデータを収集する。 【2 年次前期】 ⑥研究計画書に基づき、データを収集・分析する。 ⑦データ収集・分析の適切性を評価する。 ⑧結果及び考察の論述を行う。 【2 年次後期】 ⑨研究指導教員の承認を得て、所定の書類とともに修士論文及び論文要旨を研究科長に提出する。 ⑩研究科委員会が指名する主査 1 名、副査 2 名による論文審査及び口頭試問を受ける。 ⑪最終試験として論文発表会の発表及び質疑応答に必要な準備を行う。 ⑫規定時間内に論文発表及び質疑応答を行う。	ゼミ	研究課題の明確化	研究指導教員及び研究指導補助教員
2		ゼミ	文献検討	
3		ゼミ	文献検討	
4		ゼミ	研究計画書の作成	
5		ゼミ	研究計画書の作成	
6		ゼミ	研究計画書審査書類作成	
7		ゼミ	倫理審査書類作成	
8		ゼミ	データ収集	
9		ゼミ	データ収集	
10		ゼミ	データ分析	
11		ゼミ	データ分析	
12		ゼミ	研究結果の論述	
13		ゼミ	考察の論述	
14		ゼミ	論文審査準備	
15		ゼミ	発表準備	

評　価　方　法	研究計画書審査，論文審査，論文発表及び質疑応答
参　考　書 参 考 文 献 等	
学 習 相 談 助 言 体 制	・研究指導教員及び研究指導補助教員は、ゼミ形式の授業を基本に論文指導を行う、学生の必要に応じて個別指導を行う。 ・研究指導教員は、必要性に応じて、共通科目の担当教員、あるいは、研究課題に関連する分野の専門家より、研究遂行に向けた助言を受けられるよう支援する。
備　　考	【14 条適用の学生が職場においてデータを収集する場合の倫理的配慮】 1．職場である保健医療機関、教育機関の責任者よりデータ収集許可文書を得る。 2．１の文書を含め、倫理委員会に必要書類を提出し、研究計画遂行の承認を得る。